



品種
・「舞田早生」

栽培カレンダー



ミョウガ

栽培のポイント

① 購入時に早生種か晩生種を確認

7~8月頃に収穫時期を迎える早生(夏)ミョウガは、やや小型です。秋ミョウガは9~10月頃が収穫時期で、早生品種に比べて収量が多く、やや大型です。親株や苗を購入する際は、「早生種」・「晩生種」のどちらか確認しましょう。

② 乾燥に注意

乾燥と強い日差しを嫌い、半日陰でやや湿った場所を好むので、こもれびのさす大きな樹木の下などが最適です。また、敷きわらなどで適湿を保つようにしましょう。

③ ミョウガタケ(軟化ミョウガ)を作ってみよう

ミョウガタケは、新芽が軟化したものです。花ミョウガをとる予定がない株に、高さのある箱や、底穴を塞いだ大きめの植木鉢などを被せて遮光して栽培します。

1 畑の準備

冬の間に堆肥と石灰をばらまいて20cmくらいの深さに耕しておく

〈1㎡当たり〉
堆肥:バケツ1杯
石灰:大きじ3~5杯

2 根株の掘りあげ

株のまわりにシャベルを深く入れ、できるだけ根をつけて株を掘りあげる

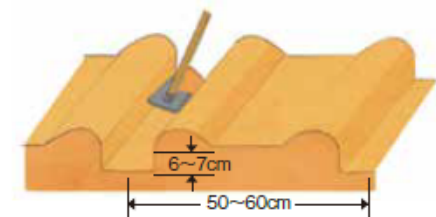


初めてのときは市販の根株を購入する防乾材と一緒に入っている



3 植えつけ

両側に土を上げながら植え溝を掘る



根株は1か所3本くらいずつ5~6cm間隔で植えつける。植え終わったら8~9cmの厚さに覆土する



4 追肥

第1回
草丈20~30cmに伸びたころ
〈畝の長さ1m当たり〉
化成肥料:大きじ3杯

第2回
1回目の1か月後
〈畝の長さ1m当たり〉
化成肥料:大きじ3杯



生育中2回くらい畝間に追肥し、軽く土に混ぜ込む。畑全面に株が広がってきたら、葉にかけないように全面に化成肥料をばらまく

5 敷きわら・灌水

芽が出始めたころ全面に稲わらか乾草を敷く
乾きやすい畑では乾燥期には水をやる



6 収穫

花ミョウガ

ふっくらとして中がよく締まっていたとき、遅れないよう収穫する。開花してしまうと品質が落ちる



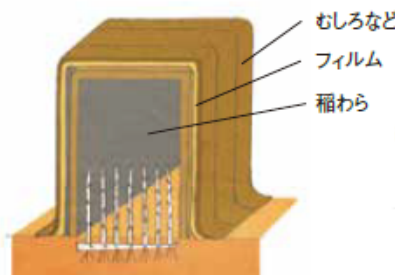
軟化ミョウガ
(ミョウガタケ)

細かく針のように切り、刺し身のつまや吸い口、いためごま和えなどに



丈が50cm
くらいになる

〈軟化ミョウガの作り方〉



紅つけの仕方
日入れ
(外気と弱い光を入れる)



フィルムの上に保温資材を厚くかけて温度を保ち、遮光する

第1回は5~6cmのころ、第2回は15cmくらいのころ行う